

4 資料活用のポイント

(1) はじめに

社会科の授業は、資料が命といいますが、魅力的な資料の開発や資料を効果的に活用した学習活動は社会科の授業づくりに欠かせないものです。中央教育審議会答申（平成20年1月）の「社会科、地理歴史科、公民科の改善の基本方針」には、「…コンピュータなども活用しながら、地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する…」とあり、言語活動の充実という視点からも資料を活用した活動を一層重視すると示されています。

ここでは、社会科の授業づくりにおける資料活用の留意点を整理し、各種の資料の特性、活用のポイント、活用例について示します。

(2) 社会科の授業づくりにおける資料活用の留意点

資料を読み取ること、解釈することなどを一層重視するという点から、資料活用の留意点を3点挙げます。

ア 資料を読み取る指導の場面を位置付けること

資料を読み取る技能は、決して自然に身に付いていくものではありません。読み取りの指導の場面を意図的に位置付けなければなりません。

イ 読み取ることと、解釈することを区別すること

それぞれの資料からどのような情報を読み取るのか、そして読み取った情報（社会的事象）の意味や意義をどのように解釈するのかの区別を授業者は明確にしましょう。社会科では、事実を根拠に語ることが大切です。資料から客観的に読み取った情報と、他の社会的事象と比較し関連付けて「それはつまりこういうこと。」と解釈した内容を区別しながら授業を進める必要があります。資料を提示し意見が活発に出されても、客観的に読み取った情報と解釈の内容が整理されなければ追究は深まっていきません。

ウ 資料を収集、選択、吟味すること

子どもが必要性を感じていないまま、一方的に資料を与えるのでは十分な学習の効果が得られません。個々の資料の価値を見極めた上で、子どもが主体的に資料を収集、選択、吟味する力を身に付けさせることが必要です。

3点に共通することは、授業のねらいは何か、ねらいに迫るためにはどのような資料が適切か、また子どもの実態を踏まえ、どのような点に留意する必要があるかということ、授業者は明確にする必要があるということです。

(3) 各種の資料の特性と活用のポイント

社会科の授業では、「5 地図活用のステップ」で示した地図はもちろん、写真、統計、年表、読み物など様々な資料があります。ここでは、次頁以降のように資料を分類し、それぞれの資料の特性、活用のポイント及び活用例について示します。活用する際、資料によっては拡大コピーやプロジェクターに投影することで、内容を焦点化するなど、電子黒板等のICT活用を含めた提示の仕方も工夫しましょう。また、インターネットを参考とする場合は、資料の信憑性や著作権などに十分留意する必要があります。

なお、地図の活用については、「5 地図活用のステップ」を参照してください。

ア 写真・イラスト（概念図・組織図を含む）

特性	<p>○視覚に訴えるので、子どもの興味・関心を高めます。</p> <p>○社会的事象の様子を観察したり特色を考えたりする力を高め、抽象的な概念の理解を助けます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真は、社会的事象の現実的な現れを表現しており、実感を伴わせて認識させることができます。 ・イラストは、不要な情報を削ることで、事象を焦点化し、明確に表しており、事象に対する理解を助けます。 ・概念図や組織図は、内容や関係をまとめたものになっており、項目間の関連に対する理解を助けます。
活用のポイント	<p>1 指導の留意点</p> <p>（学習問題との関連）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず授業者自身はその写真などからどのような読み取りができるのかよく理解し、子どもに何を、どこまで読み取らせたいのか明確にしておきましょう。 ・「写真などを見て気付いたことを発表しましょう。」と投げ掛け、学習問題をつくる活動をよく行いますが、写真などには時間や場所などの座標がないため、気付いたことや思ったことをただ羅列して終わってしまわないようにしましょう。 <p>（情報の限定性・恣意性）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真などは、ある社会的事象の一場面を写したものであるため、その現れが一般化できるものか、あるいは、恣意的な意図があるものかを理解しましょう。特に、インターネット上の写真等は、情報の精度や著作権を含め、注意して取り扱しましょう。 <p>2 指導の手立て</p> <p>（読み取りの着眼点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いつ、どこで」撮影されたものか、写されている「人、もの、こと」は何か、その分布の「広がり、数量」はどうか、など、写真の読み取りには様々な着目点があります。こうした着目点を的確に指示したり、一覧表にしてワークシートを作成したりして、読み取り方の指導を工夫しましょう。 <p>（比較・対照の視点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較の対象となるその他の資料をさらに提示して、共通点や相違点を見つけさせることで、視点を明確にし、意見を焦点化させていくことができます。 <p>（付箋の活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真などに矢印などを用いて気付いたことを直接書き込ませたり、付せんを活用させたりすることも効果的です。 <p>（考察を深める手立て）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影者や作者の思いを考えさせることで、考察が深まることもあります。
活用例	<ul style="list-style-type: none"> ・縄文時代と弥生時代のむらの様子を比較し、生活の様子の変化を考察する。 ・武士の館と貴族の館と比較し、武士の生活を考察する。 ・沖ノ鳥島の写真から、領土保全や領域、主権などについて考察する。 ・世界各地の衣食住をあわらす写真から、自然環境や人々の生活の工夫を考察する。 ・砂漠化の広がりを示す衛星写真などから、環境問題について考察する。 ・年代の違う、同じ地区の航空写真から町の変化の様子を読み取る。 ・国会・内閣・裁判所の関係図から、三権の抑制と均衡の関係を考察する。

イ 統計（表・グラフ）

<p>特 性</p>	<p>○数値を比較し、地図や写真などを併用することで、ある地域や社会的事象の特色や変容、課題を考えさせることができます。</p> <p>○複数の統計数値を一つのグラフに組み合わせたり、年表と組み合わせたりすることにより、統計と歴史的事象を関連付けた考察をさせることができます。</p> <p>○表やグラフを作成することで、ある地域や社会的事象の特色や変容、課題を考えたり、表現したりする力を高めます。</p> <p>○インターネット等で様々な統計資料を収集することが可能です。</p>
<p>活 用 の ポ イ ン ト</p>	<p>1 指導の留意点</p> <p>（統計資料の扱い方）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どの統計が必要なのか適切に選択しなければ情報過多になり、子どもを混乱させてしまうこともあります。また、数値の変化の大きいところに着目させるなど読み取らせたい部分を明確にする工夫も必要です。 ・単なる資料の数量の読み取りに終始しないように、資料から読み取る目的を定め、意図的に使うことが必要です。 ・統計資料はできるだけ新しい数値を用いるとともに、数値を固定したものを見なさないように心掛けましょう。 <p>（割合の数値の比較）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の帯グラフの比較など、割合の数値を比較する場合には、総量との関連に注意して読み取るように丁寧に指導する必要があります。 <p>（学年に応じた配慮）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校3年生の算数で棒グラフを扱いますが、数量、単位を説明するなど子どもの理解を助ける指導に留意しましょう。 ・小学校4年生では、教科書が3年生と合同なので教科書等に統計的な資料が十分にありませんが、先を見通して4年生のうちにグラフ等の統計資料を積極的に扱い、5年生の学習につなげていきましょう。 ・小学校5年生からグラフ等の統計資料を多く扱うようになります。特に円グラフや帯グラフといった割合を示すグラフについては、算数の学習と関連付けながら基礎的な読み取りの指導から十分に行いましょう。 <p>2 指導の手立て</p> <p>（読み取りの基本）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何のグラフでしょう？出典は？」「縦軸と横軸は何を表しているかな？」「縦軸の単位は？」「縦軸と横軸の目盛りはどうなっているかな？」といったグラフの基礎的な読み取りの技能について、繰り返し指導していく必要があります。 ・「全体的には増加している。」「〇年から急激に減少している。」「〇年だけ数値が少ない。」など、数値変化の表現方法や全体や部分で捉える視点の持ち方を繰り返し指導していきましょう。 ・表やグラフの変動がなぜその時点で起こったのか、背景を考えさせるようにしましょう。 <p>（イメージ化）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の約〇倍。」「東京ドーム〇個分。」など、その数値について比較対象を与えることでイメージを持たせやすくなります。 <p>（グラフの作成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「何グラフにすればよいでしょう。」と問い掛けてグラフを作成する場を意図的、継続的に設定し、グラフの種類選択及び作成能力の育成を図りましょう。

	<p>(課題や因果関係の読み取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数のグラフを関連付けて考察させたり、多軸グラフを活用したりすることによって、社会的事象の課題や因果関係を読み取る活動を促すことができます。(グラフで将来を予想する) 統計資料の数値の変化により、将来の姿を予想する力を育てましょう。
活 用 例	<ul style="list-style-type: none"> 日本の漁業部門別生産高の推移のグラフから、遠洋漁業や沖合漁業などの生産量の変化とその原因を考察する。 給水量と人口の推移の2つのグラフから、給水量と人口の関係などを考察する。 雨温図と世界の気候分布図から、世界の気候の様子を考察する。 一揆や打ちこわしの発生件数の推移のグラフから、江戸幕府の支配について考察する。 電化製品の普及の推移のグラフから、経済の成長について考察する。 戦後の選挙の投票率の推移のグラフから、国民の政治参加について考察する。 人口ピラミッドから、少子高齢社会の課題などについて考察する。

《参考》小学校算数科「数量関係」、中学校数学科「資料の活用」の内容

小学校1年生	絵や図を用いた数量の表現
小学校2年生	事柄を簡単な表やグラフに表したり読んだりする
小学校3年生	簡単な事象の分類・整理、棒グラフの読み方やかき方
小学校4年生	二つの観点から分類・整理、折れ線グラフの読み方やかき方
小学校5年生	百分率、円グラフ・帯グラフの活用、目的に応じた表やグラフ
小学校6年生	資料の考察(平均・度数分布)
中学校1年生	資料の散らばりと代表値(ヒストグラム・平均値・中央値・最頻値)
中学校2年生	(確率)
中学校3年生	標本調査(標本の傾向を捉えることで母集団の傾向を捉える)

ウ 分布図

特性	<p>○社会的事象を空間的に捉えさせることができます。分布の様子や、地域の特色、全体的な傾向などを視覚的に捉えさせることができ、国土認識、世界認識等を高めることにもつながります。</p> <p>○分布図を活用させることにより、ある社会的事象やある地域の現れについて、その背景や、原因と結果などを考え、表現する力を高めます。</p>
活用のポイント	<p>1 指導の留意点</p> <p>(地図に慣れ親しませる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分布図は、地図を加工した資料です。世界や日本について、ある程度の地理的認識がなければ効果的な活用は難しいので、日頃から地図に慣れ親しませましょう。 ・日本地図や世界地図を用いた分布図は小学校5年生から多く活用するようになります。そこで、小学校3、4年生の段階から日本地図や世界地図に触れさせたり、絵地図の作成や白地図を利用した作業など、地図を加工させたりする活動を位置付けていきましょう。 <p>(分布図の特性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分布図の分布の境界は必ずしも明確に分けられないものであることや生産量などがゼロでなくても、分布図の単位未満のものが表示されないことに留意しましょう。 <p>2 指導の手立て</p> <p>(読み取りの基本)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分布図は、そこで扱う地域の名称などの習得状況を確認する必要があります。 ・色分けやドットによって分布の様子を示したり、矢印などで結び付きを示したりするなど、分布図には様々な表現方法があります。資料タイトルや凡例の読み取りについて丁寧に指導した上で内容を読み取らせましょう。 <p>(分布図作成上の指導)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分布図を作成させる際には、どのような表現方法が適切か、凡例をどのように作成するか、何色を用いるか、などについて指導しましょう。 ・統計資料を活用し、「○○の生産がさかんな国(都道府県)」というような分布図の作成を行わせることにより、世界の国々や都道府県の名称と位置など、地理的認識を高めていくことができます。 <p>(複数の分布図の関連付け)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の分布図や統計資料などを関連付けて考察させることによって、諸地域の課題や様々な社会的事象の因果関係の読み取りを促すことができます。
活用例	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のまわりの公共施設や土地利用などの分布を絵地図にまとめる。 ・日本の人口分布図から、過疎・過密問題を取り上げ、人口に関する特色を大観する学習を行う。 ・我が国の工業地域の分布図から、工業地域の特色や立地について考察する。 ・我が国の主な農産物の分布図について、気候に関する資料など複数の資料と関連付けて考察する。 ・前方後円墳の分布図から、大和政権の支配の様子について考察する。 ・主な大名の配置図から、江戸幕府の大名支配について考察する。 ・ハンガーマップから、人口と食糧問題、南北問題について考察する。 ・国際紛争図から、国際紛争と平和、我が国の役割について考察する。

エ 年表

特性	<p>○歴史的分野に限らず，社会的事象を時間的に捉えさせていく上で欠かせない資料です。</p> <p>○年表を読み取ったり，作成したりすることで，社会的事象についての過程や背景，原因と結果などを考え，表現する力を高めます。</p>
活用のポイント	<p>1 指導の留意点</p> <p>(年表に慣れ親しませる)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年表は社会的事象を時系列に並べたものであり，読み取りは比較的平易ですが，時代区分，西暦，世紀，年号などについて，歴史学習の導入期はもちろん継続的に指導し，扱いに慣れるようにしていく必要があります。 <p>(読み取りの基本)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年表に挙げられている社会的事象は簡潔な文章でまとめられており，子どもたちにとっては逆に難解である場合もあります。年表を読み取るには，年表に挙げられた事象の内容が理解できることが前提となることを念頭に置きましょう。 <p>(年表の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書等で掲載されている年表は，重要事項だけで構成されていますので，単元の導入やまとめで時代を大観する活動，あるテーマで年表を再構成する活動，ある社会的事象に関連付けてそれ以前を振り返ったり先を見通したりする活動など，比較的長い期間を見渡す活動において有効に活用できます。 教科書に掲載されている年表は，限られた重要事項を時系列で整理したものであり，学習内容によっては，年表の内容を付け足していくことも有効です。 <p>2 指導の手立て</p> <p>(等尺年表の活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書等に掲載されている年表は時間的な長さを正確に表現していません。また，歴史教科書の内容配列も時系列に順序立てたものばかりではありません。そこで，歴史的事象を等尺年表に再構成することで，新しい発見ができ，授業にも役立ちます。 <p>(年表の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史学習に限らず，学習のまとめとして年表を作成することは多くあります。そこで，縦長年表，横長年表の違いや組み合わせ年表の作り方などについて，作業前に指導しておくことが適切です。 政治，経済，外交，文化など複数のカテゴリーに分けて組み合わせ年表を作成することは，複数の社会的事象を関連付ける考察を促し，事象の認識を深めさせるとともに，時代を大観させる学習に役立ちます。
活用例	<ul style="list-style-type: none"> 昔の道具の年表をつくり，人々の暮らしの変化について考察する。 地域の人々の生活の向上に尽くした先人の年譜をつくり，先人の働きや苦心を考察する。 北方領土に関する年表から，北方領土が我が国の固有の領土であることなど，我が国の領域をめぐる問題について考察する。 鎖国の年表から，江戸幕府の鎖国政策について考察する。 日清・日露戦争や条約改正に関わる主な出来事を年表に表し，陸奥宗光や小村寿太郎の努力を捉える。 政治，経済，文化などテーマ別に年表をつくり，時代を大観する学習を行う。 人権思想の年表から，人権思想の発達と日本におけるその歩みを考察する。 軍縮問題などの年表から，世界の平和について考察する。

オ その他

(7) 映像・動画

特性	<p>○映像は、事象の現実的な現れを動きや音声を伴って表現しており、子どもの視覚に訴え、実感を伴わせて社会的事象を認識させることができます。</p> <p>○映像を活用することにより、社会的事象の様子を観察したり特色を考えたりする力を高め、抽象的な概念の理解を助けます。</p> <p>○インターネットでも様々な映像資料を収集することが可能です。</p>
活用のポイント	<p>1 指導の留意点</p> <p>(映像資料の内容の分析, 事前準備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず授業者自身はその映像からどのような読み取りができるのかよく理解し、子どもに何を、どこまで読み取らせたいのか明確にしておきましょう。 ・長時間視聴させるのではなく、できれば編集などして、必要な箇所だけ提示できるように工夫しましょう。 ・DVDなどの映像資料は、世界の様々な地域の様子を実感をもって知ることができる資料となりますが、それがそのまま地域や国の地域的特色とはならないので、その点に留意した取扱いを工夫する必要があります。 ・視聴する映像の内容が、思想・信条的に偏りがないように、また過度に刺激的なものにならないように留意する必要があります。 ・市販のビデオやDVD、インターネットの映像等を教材として利用する場合は、著作権に留意する必要があります。 <p>2 指導の手立て</p> <p>(視聴の工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放映する前に注目するポイントを指摘し、目的意識を持たせて視聴させることが大切です。 ・「見終わった後に、映像の内容に関するクイズを出すから、大事なことはメモしながら見よう。」という投げ掛けをして放映する方法もあります。 ・音声を消して映像だけ見せることにより、注意深く観察させることができます。 ・一時停止ボタンをうまく活用し、途中で解説を入れたり、問い掛けをしたりすることで、子どもたちの関心をより高め、理解を深めさせます。 ・ワークシートなどを使い、内容を確認したり、感想を書かせたりすることも有効です。 <p>(映像資料の作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働く人たちにインタビューをした自作の取材映像を用いることも効果的です。
活用例	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用し、同時刻の世界各地の映像から、時差を考察する。 ・世界の人々の生活の様子の映像から、生活や文化の違いを考察する。 ・世界のニュース映像から、世界の環境問題について考察する。 ・戦前、戦中のニュース映像から、今の生活との違いや戦争について考察する。 ・ベルリンの壁崩壊などの映像から、冷戦の終結について考察する。 ・無形文化財などの映像から、地域の伝統芸能について考察する。 ・政見放送などの映像から、政党間の主張の違いについて考察する。 ・地域紛争などの映像から、世界の平和について考察する。

(イ) 読み物（史料を含む）

特性	<p>○社会的事象の表面的な表れだけでなく、その背景となる具体的な原因や、その事象に関わる人々の思いを読み取らせることができます。</p> <p>○どのような立場の人が、いつ、何を、どう表現しているか、適切に読み取らせていくことで、多面的・多角的な見方・考え方を身に付けさせていくことができます。</p>
活用のポイント	<p>1 指導の留意点 (事前準備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い文章を読むことを不得手とする子どもは少なくありません。子どもが内容を十分に理解せず、文章を書き写すだけで分かったつもりにならないように留意しましょう。 ・難しい語句が混じることもあり、資料の価値を十分に生かせないこともあります。小学校では、辞書を常に携帯させ、分からない語句を調べる習慣を付けさせたり、難解な専門用語はあらかじめ解説したりする必要があります。 ・授業の目的に応じて、適切な読み物を選択する必要があります。また、読み物の全てでなく、一部を活用することも考えられます。 <p>2 指導の手立て (読み物資料の読み取りの工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「重要なところに下線を引きましょう。」「要約するとどういうことだろう。」というように問題意識と関連付けて問い掛けをしていきましょう。 ・「こんな情報がほしい。」という問題意識や目的意識を持つことが文章を丁寧に読むことにつながります。 ・誰が（どこの、どのような立場の人）が、いつ、何について、どのような思いで語った（記した）ものかを確認、整理していくことが多面的・多角的な考え方を身に付ける基盤になります。 ・関連するほかの読み物資料や別の資料と組み合わせ、関連付けることで、対象とする社会的事象に迫ることも考えられます。
活用例	<ul style="list-style-type: none"> ・働く人の話や地域の先人の伝記から、その努力や工夫を考察する。 ・「魏志」倭人伝から、卑弥呼の政治など邪馬台国の特色を考察する。 ・二条河原落書から、当時の世相を考察する。 ・武家諸法度や大名の配置図から、江戸幕府の支配について考察する。 ・「女工哀史」から、当時の労働者の様子や労働者の権利などについて考察する。 ・戦争体験の手記などを読ませたり、読み聞かせたりすることで、平和について考察する。 ・公害被害者の手記から、公害の被害や公害防止の対策などについて考察する ・大日本帝国憲法と日本国憲法を読み比べ、基本的人権や民主主義について考察する。

(ウ) 新聞

特性	<ul style="list-style-type: none">○記事によっては写真やイラスト，地図やグラフなどの複数の資料が掲載され，社会的事象を総合的に認識させることができます。○今日的な課題を扱う記事や，地方紙や全国紙の地方版などには身近な題材が記事となることもあり，興味・関心を持たせることができます。○新聞に親しむことで，社会に興味・関心を持つきっかけとなります。○統計資料など最新のものが取り扱われているので，即時的な教材になりえます。
活用のポイント	<p>1 指導の留意点</p> <p>(新聞資料の内容の分析，事前準備)</p> <ul style="list-style-type: none">・何を学ぶのか目的を明確にし，教科書や資料集の教材と関連する適切な記事を選択します。・新聞に慣れることから，内容の要約や意見交換，投書など児童生徒の育てたい力に合ったものを選ぶ必要があります。・難しい漢字や表現が多く使われる場合もあり，記事の分量を含め，児童生徒の学習にふさわしい記事を選ぶ必要があります。・新聞社により記事の論調に違いがあることがあるので，見方，考え方の多様性に留意する必要があります。・記事の内容の恣意的な誇張や真偽を吟味しながら読み込むなど，メディアリテラシーに留意しましょう。 <p>(著作権)</p> <ul style="list-style-type: none">・新聞記事の複製には許諾が必要な場合と必要でない場合があります。また，個人が特定できる写真や氏名等の個人情報保護に留意しましょう。 <p>2 指導の手立て</p> <p>(新聞の読み取りの基本)</p> <ul style="list-style-type: none">・新聞の記事は，5W1H (いつ，どこで，だれが，なにを，なぜ，どのように) で構成されることが多く，読むときの基本となります。・リード文は記事の内容を短くまとめたもので，比較的長い記事を理解する手助けになります。 <p>(多様な考え方や価値観の育成)</p> <ul style="list-style-type: none">・同じ記事を，複数の新聞から取り上げることで，多様な考え方や価値観に触れることができます。また，メディアリテラシーを育てることにもつながります。 <p>(新聞づくり)</p> <ul style="list-style-type: none">・新聞づくりは，イラスト，グラフ，絵地図などを作成させたり，自分の感想や考察を述べさせたりするなど，学習のまとめの活動として有効な手段の一つです。 <p>(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none">・適切な情報を取捨選択したり，内容を要約したり，自分の意見を記述したり，発展的な内容を調べたりすることに導くワークシートは有効です。
活用例	<ul style="list-style-type: none">・遺跡の発掘などによる新たな歴史的な発見の記事を授業に取り入れる。・選挙の記事などを利用して，民主主義の政治を具体的に学ぶ。・環境に関連する記事などを利用して，自分たちでもできることを考える。・捕鯨問題の記事から，文化や価値観の多様性を学ぶ。・防災に関する記事を集め，地域の住民として自分たちでもできることを考える。・同じ記事を，複数の新聞から取り上げることで，主体的に情報を取捨選択したり，同じ記事を異なるメディアのものと比較したりして，情報の活用を考察する。